

Topic 01 「教育実践研究」大学院での学びを現場で生かす

熊本大学教職大学院では、教育現場で活かせる実践的指導力の向上を目指し、理論と実践の往還を重視した学びを展開しています。授業で理論的知識や視点を学び、連携協力校での実習を通して現場で試し、振り返りを経て次の実践へとつなげています。

今年度も、この学びのサイクルが本格始動しました。大学院1年生（ストレートマスター）は6月から連携協力校での実習を開始。年間160時間にわたり、生徒指導や授業づくり、学級経営について理解を深めています。授業の参観や実施を通じて、授業力の向上と児童生徒との関わり方を実体験として学んでいます。大学院2年生（現職院生・ストレートマスター）は、年間240時間の実習で自ら設定した課題に基づく実践研究を進行中です。一単元の授業による効果検証や校内研修での提案など、長期的な実践を重ねています。担当教員とのゼミでは成果や課題を共有し、より良い実践と課題解決を目指しています。今後も、大学院での学びを現場に還元し、教育実践力の高度化を図っていきます。



PI 安藤 啓士
教育の国際化実践
高度化コース

I am researching how to support foreign students in regular Japanese classrooms. Many of them struggle with Japanese, making it hard to understand lessons or communicate with others.

Working with partner schools, I collect data, develop support ideas at my graduate school, and then test them in real classrooms. My goal is to create simple, effective methods that any teacher can use, rather than approaches that only specialists can implement.

Next year, an international class will be established at Kumamoto University's elementary school. I'm also exploring how Japanese and foreign students can learn and grow together through effective lessons, a supportive environment, and school-wide collaboration.

This research is not just for today's students—it's for all teachers, families, and our future.

Topic 02 令和6年度卒業生「研究報告書」を公開

熊本大学教職大学院では、学習指導や生徒指導などにかかわる自己課題を発見・分析した上で、実習校の課題解決に向けて実践研究に取り組みます。

担当教員の指導のもと、実習、講義、教育実践研究などの、実践と理論の往還を通じた学びを報告書としてまとめたものを公開しました。QRコードを読み取りご覧ください。



Topic 03 授業紹介

「21世紀型能力」を育成する カリキュラム・デザイン

子供たちと学んでいた時に感じていた「なんとなくわかっていた」ことを正確に言葉で表現にしたらこれだったのか！という驚きを何度も感じました。子供に身に付けてほしい力を明確にし、カリキュラムデザインを行うことの大切さや面白さを知ることができました。目標をしっかりと見据え、教科横断的な学習を計画すると、子供たちの学びにより意味や価値が出てくると感じました。学校現場でよく聞くメタ認知、ビックアイデアなど「聞いたことある」言葉が「理解した」言葉に変わることによって視点が広がっていく喜びがあります。この学びを活かして、授業を行うことがとても楽しみです。



PI 和泉 理香

Topic 04 研究紹介

子供の地域観の変容を目指す 中学校地理地域学習の授業開発

子供たちは自分たちの暮らす地域にどのような地域観を抱いているのか、それが私の関心事です。現代社会において地方消滅論が語られる中、授業では地域の現状に真正面から向き合い、地域の持続可能性や今後の在り方を真剣に考える子供の姿を目指します。協働的な学びの視点では他校の生徒、外部の専門家等との学びを通して、地域の価値を共創していく実践を構想しています。子供や地域社会の中に潜む「諦め」や単なる人口増加に固執する価値観を問い直し、地域で生きることだけでなく、地域とつながり続けることに意味を見出すことができるような新たな地域観の形成とその変容を目指して研究を進めていきます。



P2 北 慎一郎